韓国の大河小説「土地」の舞台で考える 朴景利の世界

海と山 無数のドラマ

上高台から見た統営市中心部。奥に多島海の島々が見える 下ドラマのセットが残されている平沙里。幼少の西姫が暮らした家＝いずれも棚部秀行撮影

大河小説「土地」は、作家、朴景利（パク・キョンニ）（1926〜2008年）が25年かけて完成させた現代韓国を代表する文学作品だ。この大作の邦訳全20巻の刊行が、出版社「クオン」（東京都千代田区）で始まった。本作の完訳は世界初という。11月下旬、同社が主催する文学ツアーに同行し、朴景利が生まれ育ち、「土地」の舞台にもなった韓国南部の港町・統営（トンヨン）周辺を訪ねた。【棚部秀行】

朴景利＝クオン提供

韓国第2の都市・釜山の空港から西へ約1時間40分。バスはたくさんの橋とトンネルを抜け、海と山が間近に迫る慶尚南道・統営市に到着した。周囲は約150の島からなる多島海。「東洋のナポリ」とも呼ばれ、瀬戸内海のような光景が広がる。潮の香りと開放感に満ちた立体的な港町には、坂道が多い。魚市場では新鮮な魚介類が豊富に並び、活気のあるかけ声と人波にあふれていた。

統営は、世界的な作曲家、尹伊桑（ユン・イサン）（1917〜95年）をはじめ、詩人、小説家ら多くの芸術家を輩出した海洋都市だ。国民的画家の李仲燮（イ・ジュンソプ）（16〜56年）が晩年の傑作を生み出した町でもあり、歴史的に見ると、豊臣秀吉の朝鮮出兵時、日本の水軍と戦った李舜臣（イ・スンシン）将軍が陣を張った要衝でもある。

韓国の女性作家の「草分け的存在」朴景利は幼少期をこの地で過ごし、自作にも故郷を描いた。出世作となった長編「金薬局の娘たち」（62年）をはじめ、全5部からなる「土地」では第3部の舞台にしている。ちなみに統営には、朴景利の記念館があり、生家跡地などゆかりの場所を巡る「朴景利の道」が整備されていた。

さらに西へバスで1時間半ほど行った河東郡（ハドン）平沙里（ピョンサリ）は、「土地」のメインの舞台である。ドラマ化した際のロケ地であり、撮影で使った農村の家々が残されている。

小説「土地」の物語は、この平沙里の大地主、崔（チェ）家の一人娘西姫（ソヒ）を軸に進む。時は朝鮮王朝末期の1897年から、日本の植民地支配を経て1945年の「解放」まで。朝鮮半島の近代史と共に、時代に翻弄される人々の姿を活写する。崔家の盛衰。財産を狙われた西姫の奮闘と孤独。場所をソウル、中国東北部、東京へと移しながら、当時の習俗や社会状況を背景に、壮大な人間ドラマが紡がれる。登場人物は700人に達するという。

朴景利はこの大作を69年から94年にかけて書き継ぎ、さまざまな媒体で断続的に発表した。400字詰め原稿用紙換算で1万5000枚。韓国現代文学最大の大河小説であり、度々ドラマ・映画化され、マンガ版もある。邦訳は83〜86年、福武書店が第1部を刊行し、また2011、12年には講談社が抄訳全6巻を出版している。

今回完訳にあたるクオン社は、これまで韓国の最先端の文学を中心に翻訳してきた韓国専門の出版社だ。キム・ヨンス、パク・ミンギュ、ハン・ガンら現代的な作家の文学を日本に紹介しており、「土地」はその系列からは一見、外れているようにみえる。社長の金承福（キム・スンボク）さん（47）は「『土地』の翻訳は長年温めてきた計画です。韓国の近代化の過程が分かるような韓国文学を翻訳していきたい」と述べた。金社長は高校時代、「土地」の最新刊を心待ちにし家族で読んだという。

87年、朴景利にインタビューした文芸評論家の川村湊（みなと）さん（65）も今回のツアーに参加し、作家の墓前などでスピーチした。川村さんは「タイトルの『土地』には、『人間の社会的な所有の観念が含まれている』と話していました。近代的な経済社会への疑義だったはずです。日本の文芸誌や文学にいい印象を持っていないのが分かりましたが、途中から言葉は日本語になりました。私はこの時、両国の文学を互いにもっと紹介しなければと思った。今回の完訳事業に声援を送りたい」と話した。

朴景利は現在、統営の海と島々を望む丘の上に眠っている。今回の旅で、豊かな自然と文化が育んだ作家の文学的土壌を体感し、作品世界の一端に触れることができた。邦訳「土地」の完全版は先月、第1、2巻（各3024円）が同時刊行され、7年をかけて全20巻を完結する予定になっている。

大地主の娘が生きた日本統治〜解放

全20巻 日本の出版社が世界初完訳へ

方言や俗語 表現に腐心

統営大橋を前に話す清水知佐子さん＝棚部撮影

第2巻を翻訳 清水知佐子さん

「土地」には主人公だけではなく、取り巻く大勢の人々の暮らしが丁寧に描かれています。恋愛、けんか、嫉妬――。日韓の近代史を学びつつ、文学好きはもちろん、韓国ドラマのファンにも楽しんでいただけます。

「反日的」という意見もありますが、韓国の研究者から「時代背景のほとんどが日本に統治されていた頃。登場人物が日本を批判しても反日小説ではない。人を恨んだり、復讐したりすることを勧めてはいない」と聞き、勇気づけられました。苦労したのは方言や俗語、作家特有の言い回し。多くの方に励まされ、特に完成後、朴景利さんの長女、金玲珠（キム・ヨンジュ）さんに「真心を込めて作ったのがよく分かります」と言われ胸にじんときました。（第1巻は翻訳家の吉川凪さんが担当）

鳥の目 虫の目

大島秀利

「あのアスベストの巨人が倒れるとは、20年前はまったく考えられなかった」

日本の被害者団体などでつくる石綿対策全国連絡会議の古谷杉郎さんは、感慨深げに話した。

「巨人」とは、かつて世界一のアスベスト（石綿）産出国だったカナダをさす。そのカナダ政府が今月15日、石綿の輸出入、製品生産などを2018年までに全面禁止すると発表したのだ。

カナダは、フランス語圏のケベック州を中心に白石綿の大規模な鉱山があり、最盛期の1973年には年間169万㌧を世に送り出した。日本では98〜05年に石綿総輸入量の42％をカナダ産が占めた。

声上げ倒した「石綿の巨人」

欧州が石綿の使用禁止へとかじを切り始めたとき、カナダの石綿業界団体はパリに売り込み拠点を置き、「（カナダが産出する）白石綿は安全」という主張を繰り広げた。足元のフランスが97年に石綿輸入禁止へ転じると、カナダ政府は世界貿易機関（WTO）に無効を訴えたが、却下された経緯もある。

やがて欧州や日本での石綿使用の禁止の流れとともに、カナダの輸出量も次第に減り、自国内での消費もなくなっていた。

ところが、カナダは石綿の輸出を続けた。中でもアジア諸国向けが99〜09年に4分の3以上を占めた。これに対し、日本、韓国、インドなどの被害者や支援者が立ち上がった。10年末、古谷さんら「アジア連帯派遣団」の7人がカナダを訪れ、「死の商人」の非道を訴えたのだった。中皮腫で父を失った奈良市の吉崎和美さんは「私の父は輸入されたアスベストで殺された」と書かれたプラカードを手にした。

石綿産業の支援を検討してきたケベック州当局やカナダ政府はすぐに姿勢を変えなかった。しかし、この6年間、カナダでは公衆衛生の研究者をはじめ科学者、ジャーナリスト、議会が、石綿禁止に向け少しずつ動き始めていたという。

今、世界一の石綿輸出国はロシアである。この「もう一つのアスベストの巨人」を倒すことができるのか。古谷さんは「被害者が声を上げ続けることです」と語っている。

（社会部編集委員）

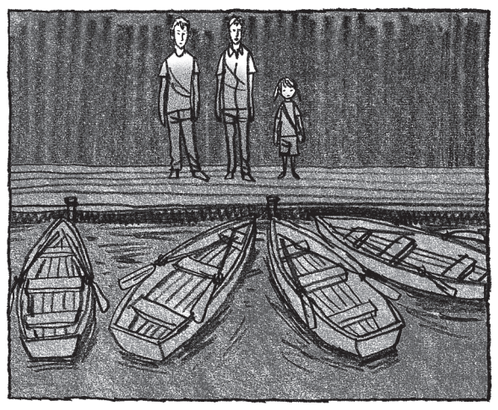
＝次回は1月18日

満月の泥枕

289

道尾 秀介
山本 重也 画

第六章 一（38）



「ほんとのこと言うと、俺じつは、あれ凸貝ちゃんたちがやったことだって知ってたんだよ。龍神を池に突っ込ませたり、飛猿と入れ替わって宝珠を水ん中に放り投げたりしたの。あの日は三国祭りの警備に駆り出されてさ。龍神が公園の入り口の石段を上っていくとき、その場にいたんだ。そしたらほら、あのバイオリン弾いたじいさん……老原さんか。あの人がでかい声で飛猿に向かって、〝二美男ちゃん〟って呼んだのが聞こえて」

「あれはまいったよ……」

「パンダのお面被ってたのも、服装とか身のこなしで、嶺岡道陣さんかもしれねえって気づいた。去年ほら、あんたが交番に来て、道陣さんが殺されたかもしれないなんて言ってたことがあったから、あんたと道陣さんとはなんとなく頭ん中でつながってたからな。いやさ、俺、もうわけがわかんなかったよ。俺が沈めた山岡泰侑の頭蓋骨を、何で凸貝ちゃんたちが、あんな大がかりな仕掛けでかっぱらっていったのか、それをどこに持ってったのか、そもそも何で頭蓋骨のことをあんたたちが知ってたのか」

そう、わかるはずもない。

「つぎの日、あんた交番に来ただろ？　そんで龍神とか飛猿のこととかいろいろ訊き出そうとするもんだから、やっぱりあれは凸貝ちゃんたちの仕業だって確信したんだけど、なにせこっちも下手に何か喋るわけにもいかねえじゃんか、だからけっきょく、わけのわかんないままでさ。そのあとずっと、一人で考えて、考えて――」

そうこうしているうちに、また二美男が交番へやってきたかと思うと、岐阜の鉱山博物館に行ってくるけどお土産は何がほしいかなどと言い出した。

「もう頭ん中、はてなマークだらけだよ。何だよ鉱山博物館って」

そのはてなマークがどうにもならなかった剛ノ宮は、探りを入れようと、翌朝一番で二美男のアパートへ向かったのだという。しかし二美男も汐子もいなかった。剛ノ宮はいったん自宅に戻ったが、そのあと、もしや二美男は岐阜の鉱山博物館とやらに頭蓋骨を持っていったのではないかと考えた。理由はもちろん、さっぱりわからなかったが。

KR-611

手先や肌が荒れてつらい！ ケラチナミンコーワ 20%尿素配合クリーム

興和株式會社 興和新薬株式會社 東京都中央区日本橋本町三丁目4-14 本製品のお問合せ：興和（株）お客様相談センター（Tel.03-3279-7755 受付時間9:00〜17:00 土・日・祝日は除く）

●効能・効果／手指の荒れ、ひび・ひざ・かかと・くるぶしの角化症 第3類医薬品

OTC 医薬品

毎日新聞旅行

宿泊はすべてシングル、昼食は名物料理や地元B級グルメ

四国八十八ケ所おへんろちょっぴり歩き 全12回

●来年1月〜12月に八十八ケ所を巡拝 ●先達の資格を持つ当社添乗員がご案内
●有名な遍路道や趣のある道を歩き、他はバスで移動 ●お1人様、途中から、1回だけのご参加も大歓迎

3081 第1回 1番霊山寺から11番藤井寺 2日間

1月16日(月)、1月28日(土) 大人お1人様 1人1室 29,800円

霊山寺（イメージ）

①大阪梅田8時発＝明石海峡大橋＝（遍路用品を購入）＝1番霊山寺…2番極楽寺…3番金泉寺＝4番大日寺＝5番地蔵寺（五百羅漢）＝ホテルサンシャイン徳島（泊）②＝6番安楽寺＝7番十楽寺…8番熊谷寺＝9番法輪寺＝10番切幡寺（駐車場から歩いて参拝）＝11番藤井寺＝梅田19時ごろ着◇食事：朝1、昼2、夕1◇歩行：①4㌔で1時間②4㌔で1時間

※来年の四国遍路ツアーのパンフレットをご請求ください。

ニュージーランドの絶景をハイキング

南島の山岳展望コースと北島の巨木の森

A0029 ルートバーン・トラックとカウリの巨木

中級者向き 8日間

3月22日(水) 催行決定 大人お1人様 498,000円 燃油サーチャージ（12月1日現在0円）、関西空港使用料、訪問国空港諸税などが別途必要です。

ルートバーン・トラック（イメージ）

●ニュージーランド南島を代表するハイキングコース、ルートバーン・トラックへ
●氷河を抱く秀嶺を眺め、シダに覆われた原生林や美しい山上の湖畔を巡り、プライベート・ロッジに宿泊
●北島ではニュージーランドにしかないカウリ（「森の神」とも呼ばれる）の巨木の森を探訪

①関西空港（夜）発、空路ニュージーランドへ（機中泊）②北島のオークランドで乗り継ぎ、南島のクイーンズタウンへ③④⑤ルートバーン・トラックをハイキング⑥クイーンズタウンの街を散策。空路オークランドへ⑦カウリの巨木の森をハイキング⑧オークランド（午前）発、成田空港経由で伊丹空港（夜）着◇予定航空会社：ニュージーランド航空◇宿泊：①機中泊②⑤クイーンズタウン「ハートランド」③マッケンジー小屋（ロッジ）④ルートバーン・フォールズ小屋（ロッジ）⑥⑦オークランド「ニューグランド・ミレニアム」◇食事：朝5、昼4、夕5及び機内食◇歩行：③15㌔で6時間④15㌔で7時間⑤11㌔で4時間⑦10㌔で4時間半

◆旅程中の＝はバス、…は徒歩の表示です。※最少催行人員：国内旅行15名、海外旅行10名、添乗員が同行します。※詳しい旅行条件を記した書面をお渡ししますので、ご確認の上お申し込みください。旅行代金に消費税は含まれております。

お問い合わせは 国内 ☎06・6346・8800 海外 ☎06・6346・3830 営業時間10時〜18時 土・日・祝は休業

ホームページもご覧ください。 毎日新聞旅行 大阪 検索

旅行企画・実施 毎日新聞大阪開発株式会社 〒530-8283 大阪市北区梅田3丁目4番5号
観光庁長官登録旅行業 第704号 一般社団法人日本旅行業協会正会員 総合旅行業務取扱管理者 菅原眞 太田正人